

ギャラリー

港都・神戸の情景

アオイ書房から出版された川西 英^{ひで} (1894~1965) の版画絵本『港都情景』(1941) には、古道具屋・船具商・進水式・船室・外国人水兵・サーカスなど英得意の神戸のエキゾティズムを強調した挿絵が艶やかに添えられています。「港都・神戸の情景」展では、英自摺の挿絵原画全点を紹介します。

水上警察署や商工会議所を遠望する梶井一夫^{ますい かずお} (1908~91) の《メリケン波止場より》は、画家の友人が愛蔵していた印象派風に描かれた神戸港風景で、補修を経て今回初公開となります。阪神高速3号神戸線が建設される前の、情趣ある港の風景特集です。神原 浩^{かんばら}、別車博資^{べっしやひろすけ}、川端謹次^{きんじ}、小見寺八山^{おみでらはっせん}、伊川 寛^{かん}、菅原洗人^{こうじん}の作品をあわせて展示いたします。



梶井一夫《メリケン波止場より》1953年 油彩・キャンバス(新収蔵品)

平成 24 年(2012) 4 月 13 日(金)~6 月 3 日(日)

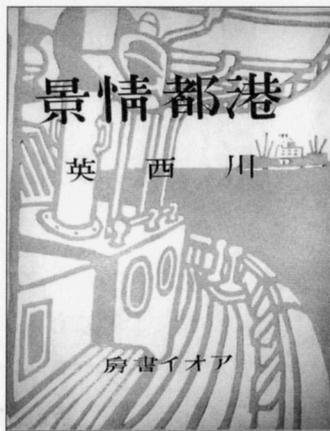
休館日：毎週月曜日(ただし 4 月 30 日は開館)、4 月 19 日(木)、4 月 20 日(金)

 神戸市立博物館 2 階ギャラリー

〒650-0034 神戸市中央区京町 24 TEL 078-391-0035

同時開催：特別展 南蛮美術の光と影〔会期：4 月 21 日(土)~6 月 3 日(日)〕

開館時間：午前 10 時~午後 5 時(金・土曜日は 7 時まで開館、入館は閉館 30 分前まで)



川西 英
『港都情景』
《表紙 ランチ》



《船室》

亞米利加を想ひ 歐羅巴の夢を現實に幾度か運んだ此船室。いろいろの船客がいろいろの要件での航海。楽しい旅もあらし 悲しい旅もあらし。その長い旅路の安息所が想出深い船室である。窓の海はいつも蒼く、部屋は小さく、同じ壁紙に同じかあてんに、倦怠を覚える或る日、孔雀の尾羽振りかざる心のやうな旅立つ日の心といふ意味の歌がでさうで、之を此の壁に落書きしてみたい氣持がふと浮んだ。そんな氣持で注意深く見ると枕の邊に極く小さく頭文字と半號が落書きしてある。同じ心の旅人をなつかしみ愛着を感じた船室である。

『港都情景』は、アオイ書房の10周年を記念して刊行された書窓版画帖十連聚の一冊です(限定250部)。当時活躍中の創作版画の作家が、一人一冊、版画絵本制作を担当しました。其一から其九まで刊行された版画絵本の題名や発行年は下記のとおりです。

其一	織田 ^{かずま} 一磨	『都会生活』(石版)	1941年9月30日発行
其二	川西 英	『港都情景』(木版)	1941年12月15日発行
其三	川上 澄生	『文明開化往来』(木版)	1941年12月15日発行
其四	前川 ^{せんぼん} 千帆	『新野外小品』(木版)	1942年7月25日発行
其五	関野準一郎	『東京の窓』(銅版)	1942年7月31日発行
其六	武井 ^{たけお} 武雄	『宇宙説』(銅版)	1942年12月25日発行
其七	逸見 ^{へんみ たかし} 享	『水韻譜』(木版)	1942年12月25日発行
其八	恩地孝四郎	『蟲・魚・介』(混合技法)	1943年3月15日発行
其九	平塚 運一	『伊豆一周畫詞』(木版)	1943年3月15日発行

川西 英は、「神戸百景」の制作(1933~36年)やサーカスを題材にした作品によって、異国情緒豊かな木版画を発表する作家として地位を確立しました。『港都情景』には、どこかで見たことのある川西版画のエッセンスが詰め込まれた印象を受けます。また、当時の世相を反映する国威高揚を意識した表現も含まれています。

本展ではすべて川西自摺の挿絵原画を展示します。色彩がしっかりと載ったオリジナル木版画をお楽しみください。もちろん川西 英は書窓版画帖十連聚全九冊を所蔵していましたが、これらは英の創作版画コレクションに含まれていたため、京都国立近代美術館が一括購入しました。



《姑娘》



《船具屋》



《西洋骨董店》



菅原洗人《港（赤）》



《神戸製鋼浜側》

作家の言葉

昭和28年秋、30歳の私は神戸市に定着した。

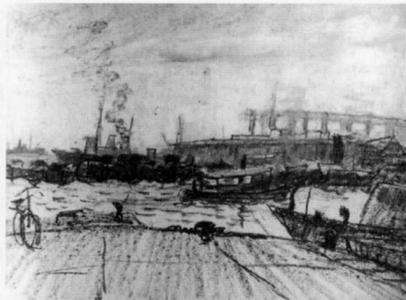
北野町の異人館街や港の風景を描いていたが、灘浜の神戸製鋼の巨大な工場群と黒煙を吐く煙突のすさまじさと、鉬石を熔解した赤い海水に圧倒された。

異様な美しさに心を奪われて、夢中で制作した。私の長いヨーロッパと神戸の画業の原点です。

菅原洗人



《神戸港》



《神戸港》



《港風景》



《神戸港風景》

菅原洗人(1922～)は本名・光三。山形県の出身で、幼少時に北海道へ養子に出された後、波乱万丈の半生を送りました。神戸の市民美術教室で小磯良平、小松益喜に師事。1956年頃の作《街》で神戸市展一席を得ました。

戦災で焼失した山本通り1丁目の旧・小磯良平邸跡に建てられたバプテスト教会にて精神的に救われ、同敷地内に焼け残っていた旧・小磯家土蔵で一時期生活し、制作活動を続けました。1970年代より、ほぼ毎年2～3ヶ月フランスに滞在し、同地で制作。1970年代後半頃よりサロン・ドートンヌに出品。1990年、ドーヴィル国際絵画展(フランス)に出品した《河沿いの家(シャルトル)》が、グランプリ(大賞)を受賞しました。

平成18年度に寄贈された神戸港風景と素描を紹介します。

ギャラリー 港都・神戸の情景 出品リスト

作家名	番号	作品名	制作年	技法・材質	寸法(画面)
川端 謹次	1	潮風	1955(昭和30年)	油彩・キャンバス	145.5 × 112.3
小見寺八山	2	神戸港図	1934(昭和9年)	油彩・キャンバス	63.8 × 121.3
榊井 一夫	3	メリケン波止場より	1953(昭和28年)	油彩・キャンバス	52.9 × 72.4
神原 浩	4	メリケン波止場	1950～60年代	エッチング、アクアチント・紙	14.8 × 32.3
伊川 寛	5	神戸港風景	制作年不詳	油彩・キャンバス	41.1 × 32.0
菅原 洸人	6	港(赤)	1955～64頃	油彩・キャンバス	65.0 × 90.0
別車 博資	7	汽船	1935(昭和10年)	水彩・紙	23.4 × 32.3
〃	8	港祭の日	1949頃	水彩・紙	24.8 × 34.5
〃	9	神戸京橋	1963(昭和38年)	水彩・紙	69.2 × 102.0
川西 英	10	「神戸百景」より《パイロットボート》	1936(昭和11年)	木版色摺・紙	15.5 × 25.8
〃	11	商工会議所と水上署	1952(昭和27年)	木版色摺・紙	32.6 × 24.0
〃	12	港俯瞰(異人館)	1960(昭和35年)	木版色摺・紙	32.7 × 48.0
〃	13-1	『港都情景』より《表紙 ランチ》	1941(昭和16年)	木版色摺・紙	27.2 × 44.0
〃	13-2	『港都情景』より《西洋骨董店》	1941(昭和16年)	木版色摺・紙	20.3 × 15.4
〃	13-3	『港都情景』より《滞船》	1941(昭和16年)	木版色摺・紙	20.2 × 15.4
〃	13-4	『港都情景』より《船室》	1941(昭和16年)	木版色摺・紙	20.4 × 15.3
〃	13-5	『港都情景』より《進水式》	1941(昭和16年)	木版色摺・紙	20.2 × 15.4
〃	13-6	『港都情景』より《観艦式》	1941(昭和16年)	木版色摺・紙	20.2 × 15.4
〃	13-7	『港都情景』より《船具屋》	1941(昭和16年)	木版色摺・紙	20.2 × 15.3
〃	13-8	『港都情景』より《曲馬》	1941(昭和16年)	木版色摺・紙	20.3 × 15.3
〃	13-9	『港都情景』より《姑娘》	1941(昭和16年)	木版色摺・紙	20.3 × 15.4
〃	13-10	『港都情景』より《街》	1941(昭和16年)	木版色摺・紙	20.4 × 15.2
〃	13-11	『港都情景』より《海岸》	1941(昭和16年)	木版色摺・紙	20.2 × 15.3
〃	13-12	『港都情景』より《浮標》	1941(昭和16年)	木版色摺・紙	6.2 × 5.2
〃	13-13	『港都情景』より《望遠鏡》	1941(昭和16年)	木版色摺・紙	5.2 × 4.7
菅原 洸人	14	神戸製鋼浜側	1955～64頃	コンテ・紙	38.5 × 53.0
〃	15	神戸港	1955～64頃	サンギース、コンテ・紙	38.5 × 52.8
〃	16	神戸港	1955～64頃	サンギース・紙	38.5 × 52.3
〃	17	港風景	1955～64頃	コンテ・紙	38.5 × 52.3
〃	18	神戸港風景	1955～64頃	コンテ、パステル・紙	38.5 × 53.0



City of Design
KOBET

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization
Member of the UNESCO
Creative Cities Network
since 2008